

アカエゾマツ

マツ科
トウヒ属
樹高
30～40m

新葉を食べる
アカエゾマツハバチ



四季の観察ポイント

春

雌花は前年の
枝につく

雄花



夏

葉先の小さな
昆虫を食べる
キクイタダキ



秋

葉の断面は
四角形



まつぼっくりは
エゾマツより
細い



冬

種子



冬芽は松ヤニに覆われる



樹皮はエゾマツと比べ
ガサガサと粗い

共生するマツタケ



アカエゾマツは北海道を代表する針葉樹で、エゾマツと共に「北海道の木」に選定されています。

エゾマツと比べて樹皮が粗く赤いことからアカエゾマツの名前がつけました。

湿原に近い場所や砂地、岩場など他の樹種が育ちにくい場所でも自生しますが、成長が非常に遅く、また暑さには弱いです。特殊な土壌の場所や湿原などで純林を形成することもあります。

リン子の絵日記

アカエゾマツ

かりんちゃんピアノ上手！
すっごくいい音だね。

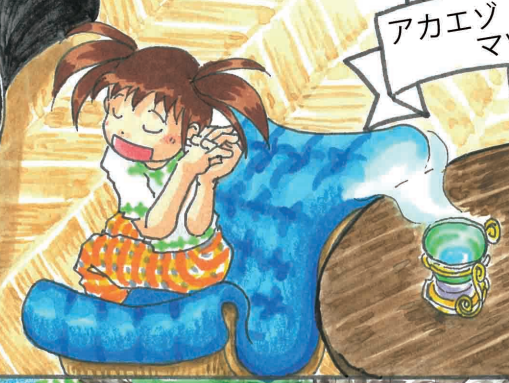
ひいおばあ様から
受け継いだピアノですの。

ピアノの
心臓は弦の音
を豊かに響かせる
響板！



このグランドピアノには最上級の北海道産
天然アカエゾマツが使われていますの。

昔は樹齢数百年の
天然アカエゾマツ
が国産ピアノの
主流でしたのよ。



近年は人工林アカエゾマツの
活用に向けて、枝打ちなど
手入れが行われていますわ。

枝打ち

枝を切り落とし
節のない材を
育てる作業。

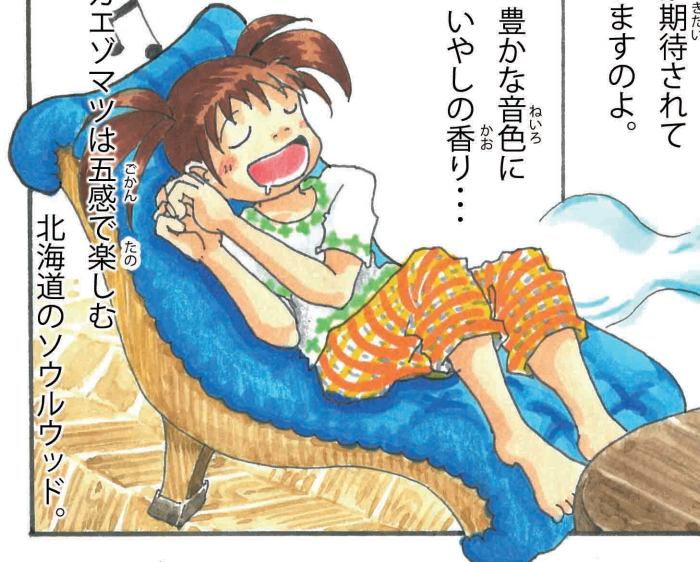


さらにアカエゾマツ
から抽出された
精油は、いやしの
アロマの他、
色々な効果
が期待されて
いますのよ。

豊かな音色に
いやしの香り…



アカエゾマツは五感で楽しむ
北海道のソウルウッド。



アカエゾマツとくらしのつながり

アカエゾマツの材は均質で緻密で美しく、ピアノの響板など高級楽器材として重宝され、かつては国産ピアノの主流でした。その後天然アカエゾマツ原木の減少により、輸入材に代わりましたが、近年再びピアノ材として活用すべく、地元や行政、企業が協力してアカエゾマツの手入れを進めています。

また抽出された精油はアロマの他、その抗菌効果が獣医医療へ応用されることが期待され、研究が進んでいます。



樹形が美しく葉が他のマツと比べて小さいため、盆栽の世界でも重宝されています。



アイヌ民族とアカエゾマツ

アカエゾマツはアイヌ語でイウオロスンク（山奥のエゾマツ）と呼ばれます。チカラスンク（鳥のエゾマツ）と呼ぶ地域もあります。弦楽器のトンコリの材料にも使われます。